

説教要旨「悪魔の誘惑にさらされて」

ルカによる福音書 4章1～13節

イエス様は荒野で40日間過ごす間に悪魔から試練を受け、その誘惑にイエス様が退けられた場面です。悪魔はここで3つのことをイエス様に語りかけました。

悪魔は最初に、「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ」と言いました。ここで悪魔が言っているのは、「神の子としての力を、自分の欲求を満たすために用いたらどうか」ということです。しかしイエス様は、「人はパンだけで生きるものではない」といってその誘惑を退けられました。そこには、自分のためではなく人々を救うために神の子としての力を用いるという固い決意が表れています。

次に悪魔は、世界のすべての国々を見せ、「もしわたしを拝むなら、その権力と繁栄の全てを与えよう」と言いました。その代わりに「わたし（悪魔）を拝め」というのです。「悪魔に魂を売れ」ということです。イエス様はこの誘惑も退けられましたが、わたしたちはこの世の権力や繁栄が、悪魔の手に握られていると感じてはいないでしょうか。しかし、この世界の本当の所有者は、この世界を創造された神様です。悪魔はその権限の一部を任されているに過ぎないのです。

最後に悪魔は、神があなたを守るはずだから神殿の屋根から飛び降りてみろと言いました。イエス様はこれも、「あなたの神である主を試してはならない」といって退けられました。困難な状況に置かれた時に、「本当に神様は共にいてくださっているのだろうか」と疑ってしまうわたしたちです。そんなわたしたちが、神様の愛を信頼することができるようになるために、イエス様がわたしたちの世界に来て下さり、十字架への道をあゆまれました。どんなに苦しくとも、どんなに辛くとも、神様の愛を信じて歩み出せるように。

イエス様に退けられた悪魔は、一時的に離れただけで消滅したわけではありません。わたしたちの歩みには誘惑がつきまといいますが、どのような時にも共にいてくださり、守り導いてくださる主に信頼して歩んで参りましょう。

(2023・2・26 説教者：稲垣真実)